

むつかしくない職業奉仕

前回、ロータリーはロータリー以外の団体と違って職業と奉仕の心は同じ一つの心である。世の為、人の為にする心を以て倫理的に職業を営みなさいと言っていると言った。

そのことは、定款の4条、綱領に書いてあります。一言でいうと「ロータリーは企業の根底に奉仕をおくべしとする思想を追及、提唱することを目的とするクラブ活動である」と言っております。

その為にロータリークラブは、職業分類という独特な制度によって職業分類委員会が職業分類表をつくり、分類された職域を一つでも多く充填し、より多くの職域のサービスが出来るように構成されているのと表裏一体の関係にあるのです。このような組織を持つ団体は他にありません。

ところで、企業の根底に奉仕を置くと企業の目的は利潤、利益の追及にありますので儲けを否定することになりはしないか？実は、初期のロータリーの指導的な人の奉仕（サービス）という一般的な考えは、Service not Self（自己犠牲の奉仕、自己滅却の奉仕）という中世のキリスト教の影響を強く受けた考え方でした。

しかし、ポール・ハリスやフレデリック・シェルドン等は「ロータリーは宗教ではない。自己を犠牲にしてまで、会社が倒産してまで奉仕（サービス）に徹しなさいというのは、宗教の世界のことである。我々は実業倫理の世界に入らなくてはならない。そのためには自己を否定するのではなく、自己の存在を前提として Service above Self（超我の奉仕、サービス第一、自己第二）でなければならない」と考え、1910年頃からこのような考えが広まり主流を占めるようになりました。そしてロータリーは、企業の根底に儲けがあることを認めた上で、その儲けとは一体何かということを考える訳です。

ここが大変肝心なところであります。

人間はみな自己のために利益を得ようとする欲望と、一方では他人の為に尽くさなければならないという義務感があって、両者が心の中で常に葛藤を繰り返しています。この争い、つまり「利己と利他の調和」をさせようという人生哲学がロータリーなのです。

ロータリー運動が職業人の倫理向上運動といわれる由縁であり、職業奉仕において高度な倫理が求められる訳であります。

それでは、儲けてよい利益、即ちロータリーでいう「適正な利潤」とはなにか？が次回のテーマです。